



2019 北海道特別支援教育研究協議会

北特研だより

第1号 令和元年6月28日

発行 北特研総括事務局

北海道札幌稲穂高等支援学校

電話 011-695-6922

「共生社会実現に向けた特別支援教育の更なる充実と発展のために」

北海道特別支援教育研究協議会 会長 木村 誠
(北海道札幌稲穂高等支援学校 校長)

昨年度開催いたしました第40回北海道特別支援教育研究協議会全道研究大会（小樽大会）は、2日間にわたり、のべ310名の参加者のもと大変盛況な研究大会となりました。総括事務局校として当日の運営に当たられました小樽高等支援学校の松浦校長先生を始め、事務局の皆様の大変心のこもったおもてなしにより、参加した会員の皆様にとって、相互に学び合う実り多い研究大会となりましたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、北特研は、昭和54年に養護学校が義務化された当時、通称「北精研」として誕生し、その後、「北知研」（平成11年度）、「北特研」（平成19年度）として歩みを進め、本年で41年目を迎えます。当初は、合わせた授業等、指導の形態ごとの指導計画づくりを中心とした研究協議が盛んに行われていたものと記憶しております。以来、北特研は、様々な分野において本道知的障がい教育の専門性の向上と発展に寄与して参りましたが、現在、地域や学校事情による会員数の減少などもあり、多様な研修ニーズに対応した研究事業の見直し、工夫改善が求められているところです。

ところで、平成24年7月、「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」という報告の中に、共生社会形成に向けた特別支援教育の在り方、推進・発展の基本事項について次のように述べられています。要約すると、

一つ、社会全体の様々な機能を活用して障がいのある子供の教育の充実を図ること。

二つ、地域での生活基盤を形成することが重要で、可能な限り共に学ぶことができるよう配慮すること。

三つ、障がい者理解を推進し共に学び合い生きる中で、社会の構成員としての基礎をつくっていくことが重要であると。

これらの言及は、これからの特別支援教育が、社会全体の様々な機能を活用し、一人一人のニーズに応じた教育を充実させるとともに、学校と地域社会が、共生社会形成のビジョンを共有し、実現に向けて連携・協力して教育を展開していくことの必要性を示唆しているものと考えます。これは正に新学習指導要領の中心的理念と意を同じくするもので、共生社会実現に向けた特別支援教育の更なる充実と発展のためにも、北特研の果たす役割は大変重要であると認識します。

本年からは、第19次の研究主題を「自分らしく豊かに生きるために、主体的・対話的で深い学びを通じた指導の在り方はいかにあるべきか」といたしました。現在、どの学校においても「主体的・対話的で深い学び」の実現を目的に授業研究が盛んに行われていることと思います。北特研といたしましても、各地区の多様なニーズに基づく研究大会の開催や、授業力の向上を始めとする特別支援教育の専門性向上につながる研究・研修事業の一層の工夫と充実と努めて参りたいと思います。

つきましては、今後2年間にわたり本校が総括事務局を引き継いで行くこととなりますが、関係各位、及び会員の皆様におかれましては、今後とも、本研究協議会へのご理解とご支援を賜りますようお願いいたしますとともに、本道特別支援教育のますますの発展と一層の充実を祈念し、簡単ですが総括事務局を代表いたしまして挨拶とさせていただきます。



報告 役員研究協議会（令和元年5月24日 札幌稲穂高等支援学校にて）

■今年度の事業計画と会計予算計画が承認され、会の活動がスタートしました！！

○令和元年度 事業計画、会計予算計画 → 承認

○研修会助成金補助は、小平高等養護学校(4万円)、雨竜高等養護学校(4万円)、七飯養護学校(8万円)、紋別高等養護学校(8万円)、南幌養護学校(8万円)の5校に決定。

○会員研究助成金は、札幌あいの里高等支援学校 堀端教諭の1名に決定。(2万円)

○全特連功労者表彰候補者に、堀川 厚志 氏（札幌養護学校長）を推薦決定。

※事業計画、予算計画その他については各地区研究大会の分散総会にて総括事務局より報告します。

○来年度の北特研全道大会の日程決定

令和2年7月28日（火）～29日（水）会場 札幌稲穂高等支援学校



北特研研修会助成金による研修会の案内

①小平高等養護学校公開研修会（兼北特研道北地区大会）

日時 令和元年7月31日（水）

問い合わせ先 電話0164-57-1203 清弘教頭先生、蓑口先生、東山先生

②雨竜高等養護学校 生徒指導研修会

日時 令和元年8月9日（金）

問い合わせ先 電話0125-78-3101 濱教頭先生

③七飯養護学校夏期研修会（兼北特研道央地区大会）

日時 令和元年7月31日（水）

問い合わせ先 電話0138-65-7004 辻先生

④南幌養護学校冬期研修会

日時 令和2年1月14日～17日のいずれか1日

問い合わせ先 電話011-378-2313 山崎先生



⑤紋別高等養護学校研修会

「不登校・ひきこもりの子どもの学校・社会復帰を目指して」

～家庭・学校・専門機関等の連携～（予定）

講師 開善塾教育相談研究所所長 藤崎 育子 氏

日時 未定

問い合わせ先 電話0158-24-1120 三木先生、芳賀先生

北特研会員研究助成金による研究

「高等支援学校在籍生徒のスマートフォン等の使用状況の実態調査」

堀端 修司 先生（札幌あいの里高等支援学校）

各地区研究大会のお知らせ

※詳しくは、各地区の第二次案内をご覧ください。

○道央地区大会 札幌大会 兼 全道研修会 令和元年7月30日（火）

北海道札幌養護学校

講演 演題「特別支援教育における『主体的・対話的で深い学び』の具現化に向けて」

講師 明星大学教育学部 教授 明官 茂 氏

部会

部会	テーマ	助言者
小学部	多くの経験から興味・関心を広げ、「やってみよう」という気持ちを育てる実践の充実	北海道星置養護学校 教頭 平口山 木綿 氏
中学部	自ら気づき、判断し、振り返りを通して次の意欲を高める実践の充実	北海道札幌伏見支援学校 教頭 小野寺 利江 氏
義務併設高等部	自分のよさを知り、自ら判断し、行動し、解決できる力を育てる実践の充実	北海道星置ほしみ高等学園 教頭 川口 毅 氏
重度重複・訪問部	興味・関心を広め、喜びを味わいながら自ら意識を向けて、学ぶ力を育てる実践の充実	北海道南幌養護学校 教頭 徳永 光 氏
単置高等部①	学ぶ事の意味や、学んだことの社会生活への活用を考え、自己有用感を高める実践の充実	北海道あいの里高等支援学校 教頭 仙北谷 逸生 氏
単置高等部②		北海道白樺高等養護学校 教頭 北嶋 公博 氏
寄宿舍部	人と関わったり、協力したりしながら生活することで、自らの力を高める生活指導の充実	北海道札幌高等養護学校 教頭 山田 賢一 氏

○道北地区大会 小平大会 令和元年7月31日(水)

北海道小平高等養護学校

講演 講師 リレハンメル五輪金メダリスト 阿部 雅司 氏

部会

部会	提言校	助言者(予定)
教科指導	旭川高等支援学校 雨竜高等養護学校	北海道稚内養護学校 教頭 橋本 伸明 氏
生活単元学習	高鷲養護学校 東川養護学校	北海道特別支援教育センター 発達障がい教育 主任研究員 岡森 博宣 氏
作業学習	美深高等養護学校 美深高等養護学校 あいべつ校	北海道雨竜高等養護学校 教頭 濱 裕晃 氏
日常生活の指導	稚内養護学校 美唄養護学校	北海道美深高等養護学校 教頭 業天 誉久 氏

○道南地区研究大会 七飯大会 令和元年7月31日(水)

北海道七飯養護学校

講演 演題 「特別支援教育のアクティブラーニング」
～『主体的・対話的で深い学び』の実践に向けた授業改善～

講師 山形大学 教授 三浦 光哉 氏

部会

部会	事例発表校	助言者
小学部	北海道平取養護学校	渡島教育局義務教育指導班指導主事 渡辺 祐介 氏
中学部	北海道教育大学附属特別支援学校	北海道室蘭養護学校 教頭 中川 正規 氏
高等部	北海道伊達高等養護学校	北海道函館五稜郭支援学校 教頭 青木 淳 氏
寄宿舍部	北海道今金高等養護学校	北海道伊達高等養護学校 教頭 山崎 淳也 氏

○道東地区研究大会 紋別大会 令和元年8月2日（金）

北海道紋別養護学校

講演 演題「新学習指導要領に基づいた授業実践

～主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善に向けて」

講師 北海道立特別支援教育センター所長 小原 直哉 氏

分科会

分科会	テーマ
国語科	学びの過程を意識した生活に生きる教科別学習
算数科・数学科	
作業学習	・卒業後の生活を見据え、主体的に取り組めるような作業学習（併設校） ・卒業後の生活を見据え、職業生活の基盤となる資質・能力を育む作業学習（高等養護）
自立活動	児童生徒の良さを見つける実態把握とその情報に基づく指導計画の作成
生活単元学習	各教科と繋がりを持ち、児童生徒の生活に密着した生活単元学習
寄宿舎	寄宿舎、学校、家庭が連携し、児童生徒が将来生活していく力の拡大

第58回全特連全国大会（埼玉大会）のお知らせ

○大会主題 「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」

～一人一人の教育的ニーズに応じる教育の充実を求めて～

○大会期日 令和元年10月17日（木）・18日（金）

○全体会会場 大宮ソニックシティホール大ホール

○記念講演 「特別支援教育の未来を展望する～新学習指導要領と特別支援教育の実践研究を通して～」

○設定分科会 学校経営、特別支援教育コーディネーターの役割とセンター的機能、幼児期の特別支援教育と幼保小の連携、各教科等を合わせた指導①（日常生活の指導・生活単元学習）、各教科等を合わせた指導②（作業学習）、教科別の指導①（小学校段階）、教科別の指導②（中学校段階）、自立活動、通常の学級における児童生徒の支援と授業改善（小・中学校）、高等学校における特別支援教育、通級による指導（発達障害・情緒障害）、難聴・言語障害のある児童生徒への指導、自閉症の児童生徒への指導、重度・重複障害のある児童生徒の指導・支援、キャリア教育、交流及び共同学習、健康・安全教育、障害者スポーツ

○大会事務局 埼玉大学教育学部附属特別支援学校内

電話 048-663-6803

第67回北海道特別支援学級教育研究連盟（道特連）全道大会岩内大会 のお知らせ

- 大会テーマ 「未来をたくましく生きる力の育成」
～学習指導要領の改訂のポイントを押さえた授業づくりを目指して～
- 大会期日 令和元年9月13日（金）・14日（土）
- 会場 岩内地方文化センターほか、周辺施設
- 記念講演 講師 北海道教育大学准教授 齊藤 真善 氏
- 大会事務局 岩内町立第二中学校 電話0135-62-0289

第46回北海道情緒障害教育研究大会（道情研）旭川大会 のお知らせ

- 大会テーマ 「自閉症・情緒障がい教育再考」
～多様な学びを支える道筋をともに考える～
- 大会期日 令和元年8月1日（木）・2日（金）
- 全体会会場 旭川市大雪クリスタルホール
- 基調講演 演題「多様な学びの場を充実させるために必要な支援」
～自閉症・情緒障害学級の課題を解決するための手立て～
講師 国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育情報センター・総括研究員 笹森 洋樹 氏
- 記念講演 演題「子どもの多様な育ちを支えるために」（予定）
講師 ころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄 氏
- 大会事務局 旭川市立永山小学校 電話0166-48-2811

令和元年度 全特連・発達障害教育セミナー

第42回 夏期セミナーへのお誘い

～学び合い、わかり合い、納得し合う～

1 東京会場

- 【期日】 令和元年8月8日（木）・9日（金） （申込期限：7月27日（金））
- 【会場】 なかのZERO（もみじ山文化センター）小ホール
- 【会費】 研修費一日につき4,000円

2 大阪会場

- 【期日】 令和元年8月20日（火）・21日（水） （申込期限：8月7日（水））
- 【会場】 アネックスパル法円坂なにわのみやホール
- 【会費】 研修費一日につき4,000円

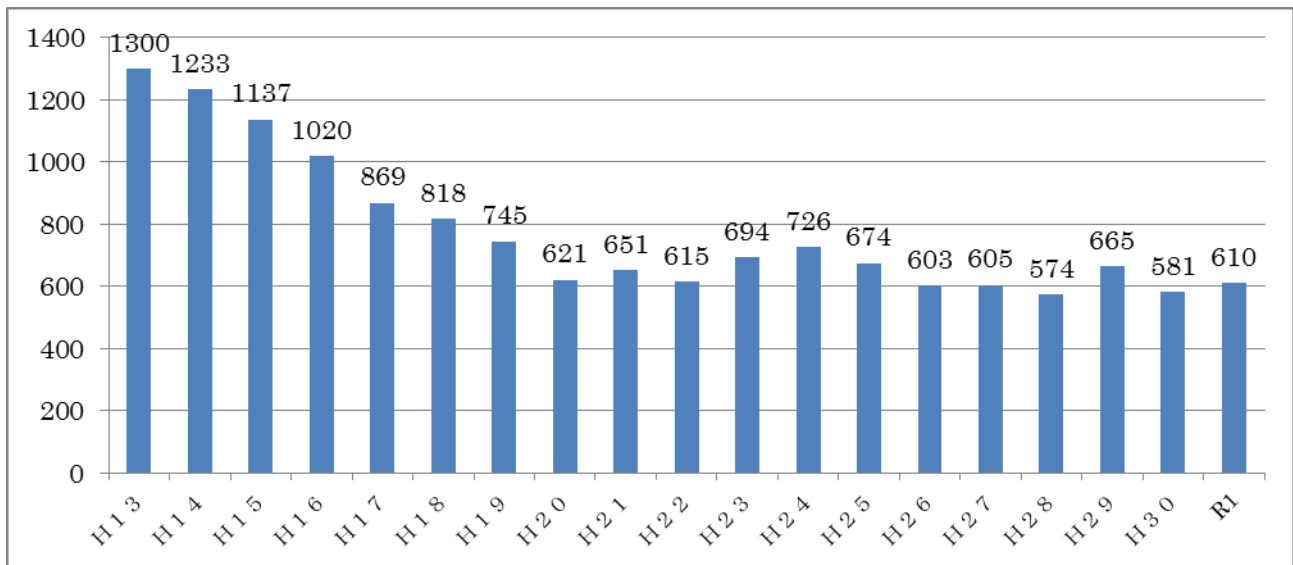
3 広島会場

- 【期日】 令和元年8月16日（金）・17日（土） （申込期限：8月2日（金））
- 【会場】 サテライトキャンパスひろしま
- 【会費】 研修費一日につき4,000円 懇親会費 6,500円

詳細については各校に案内を送付していますのでご覧下さい

報告

北特研の今年度の会員 610名 (令和元年6月28日現在)



平成	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
	1300	1233	1137	1020	869	818	745	621	651	615	694	726	674	603

平成	27年	28年	29年	30年	令和 元年
	605	574	665	581	610 (6/28現在)

平成13年度の1300名をピークに、ここ数年会員の減少傾向が続いています。

令和元年度は6月現在610名です。

傾向としては、全国大会が北海道で行われた年(平成13年、平成24年)は、増加傾向が見られたり、地区大会の年は会員が増加し、地区大会のない年(全道大会のある年)は減少したりするようです。

いずれにしても、今後とも会員の皆さんのニーズを把握しながら「魅力ある北特研づくり」への創意工夫を会員の皆さんと共に続けていきたいと思ひます。

引き続き今年度の会員を募集しています。会員の会費は、年額3,000円、準会員(特別支援学校知的障がい部門以外の教職員及びその他の者)の会費は、年額2,000円です。

毎年3月中旬には、今年度の北特研の研究成果をまとめた「研究紀要」を発行します。